

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	神埼市立千代田西部小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の学力向上に資する取組・実践は進みつつある。しかしながら、学力状況調査などからその成果が表れているとは言い難い。 ・落ち着いた学校・学級づくりを行い、児童の生活態度や学習態度の改善が図られている。取組の継続と徹底を図り、一層の安定を図る。 ・支援が必要な児童に対して、就学相談、教育相談の一層の充実を図ることが重要である。
2 学校教育目標	<p>「豊かな心をもち 個性に富み 逞しく生きる」児童の育成</p> <p>～自分を愛し、友だちを愛し、学校・地域を愛する西部小の子～</p>
3 本年度の重点目標	<p>①学び合いを重視した学習指導を推進し、学習内容の確実な定着と学習意欲の向上を図る。</p> <p>②自己肯定感を高め、自律ある行動をとることができる児童を育成する。</p> <p>③業務の効率化を図りつつ教員の質の向上を目指す。</p>

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者	
(1) 共通評価項目											
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・教職員間でマイプランを共有する。 ・授業チェックシート等を活用し自己評価を行い授業改善を図る	A	・学力向上のためのマイプランを意図した授業作りを取り組むことができたことで、児童の学習に臨む姿勢が確立してきた。 ・授業の流れがめあてから振り返りまで着実に進んでいる。	A	・マイプランを意図した授業を実施することができた。 ・授業づくりのステップ1・2・3を活用し、授業改善を行った。 ・後期に実施した教職員アンケートにて、「積極的に研修会に参加し、実践的な指導力の向上に努めている」と回答した割合は94.1%、「日々の授業改善、工夫に努めている」と回答した割合は100%であった。	A	・教職員の熱心さ、子どもに対する意気込みを感じます。 ・学校外の家庭でのゲーム時間が気になりますね。家庭のルールが必要です。	<学び部> ・学力向上コーディネーター	
	○陰山メソッドによる徹底反復学習による基礎的・基本的学習の定着	○百ます計算で学年目標達成率80%以上 ○当該学年の漢字習得率80%以上	・週3回の陰山メソッドによるスキルタイムの実施。 ・月に1回以上のスキルタイム一斉計測の実施 ・漢字の先取り学習をし、2学期までに当該学年での漢字指導を済ませ、習熟を図る	A	・陰山メソッドによるスキルタイムは、週3回、学校全体で取り組むことができた。 ・月1回の一斉計測から、計算スピードの向上も見られる。	A	・全職員が共通理解をし、全クラスが同じ進め方で実施したことで成果を上げることができた。 ・月1回の計測結果から、どの学年もタイムの向上が見られた。 ・2学期末までにどの学年も当該学年での漢字指導を終えることができた。予定通り、3学期末までに習熟と次年度の漢字の読みまで行うことができそうである。	A	・各学年の掲示物を眺むと、基礎力がついていることが分かりました。 ・全職員で学力向上に向けた共通プランを認識し、実践されていると感じました。	<学び部>	
	○「わかる」「できる」を実感できる授業づくりの推進	○アンケートにて「授業で学習したことがわかる」と回答した児童80%以上 ○算数科での単元テスト、知識・技能の観点における得点率80%以上	・研究授業に向けて指導案検討会を重ねたり、質の高い研究協議会を行ったりするなど、全職員の授業改善が進んでいる。 ・1学期の算数科の単元テスト「知識・技能」の観点において、各学年の得点率が80%以上であった。	A	・研究授業に向けて指導案検討会を重ねたり、質の高い研究協議会を行ったりするなど、全職員の授業改善が進んでいる。 ・1学期の算数科の単元テスト「知識・技能」の観点において、各学年の得点率が80%以上であった。	A	・全職員による研究授業、事後の研究協議会を行い、「わかる」「できる」を実感できる授業づくりが着実に進んでいる。全校児童に実施したアンケートから「授業で学習したことがわかる」と回答した割合は88%であった。 ・1月末までの算数科の単元テスト「知識・技能」の観点において、各学年の得点率が80%を超えた。	A	・教職員の学力向上に向けた取組の姿勢が伝わってきます。 ・予習復習の習慣付けができると更に良いと思います。	<学び部> ・研究主任	
●心の教育	●児童が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳や人権に関するアンケートにて肯定的な回答をした児童85%以上	・道徳の公開授業の実施 ・平和集会及び人権集会の実施 ・児童会活動を主体とした活動の推進	A	・道徳の公開授業や平和集会を実施した。平和集会の感想には、「自分が難民になったら考えると、戦争は絶対やめてほしい」「戦争などで困っている人を助ける人になりたい」等の記述があった。児童会の呼びかけで「くんさんづけ」のポスター掲示が行われた。	A	・人権集会では、いじめや個性の尊重に関する絵本の朗読を児童主体で行い、心に残ったという感想が非常に多かった。「いじめは絶対にない」という感想も多く見られた。児童のアンケートで、友人関係や人権に関する項目において、肯定的な回答をした児童が85%を超えた。	A	・家族や地域の方々や子どもたちの対話が一番必要だと思います。 ・児童主体の人権集会など素敵な内容で見てみたいと思いました。	<心づくり部> ・人権・同和担当 ・道徳教育担当	
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○アンケートにていじめ防止・対応について、組織的な対応ができていると回答した教員90%以上	・毎月心のアンケートの実施 ・生活アンケートと連動した担任や管理職及びSC等と連携した児童との関わり方の推進	A	・毎月の教育相談全体会や心のアンケートで児童の実態把握と全職員での対応の共通理解を図った。また、クラスの実態に合わせてSCと心の教育に関する授業を行い、児童の意識向上を図った。	A	・教職員アンケートでいじめ防止早期発見のために具体的な取り組みや指導を行っているが100%。心のアンケート(毎月)で細やかに対応ができてきたり、教育相談全体会(毎月)で全職員での共通理解ができたことが、児童への適切な対応へつながった。SCと授業を行い児童の意識理解向上を図ることができた。	A	・噂話などでもいじめのことは聞こえてきてませんでした。よいことだと思います。 ・SOSモニター等も気軽に活用するとよいです。	<心づくり部> ・教育相談担当	
	◎自らの夢や目標に向けて努力しようとする意識を高める教育活動の推進	◎アンケートにて「自分の目標をもって学校生活をおくることができている」と回答した児童85%以上	・学習や学校行事等において、個々の目標をもたせ、振り返りをもとに次への活動への意欲をもたせる。 ・キャリアパスポートの活用	A	・学期ごとにキャリアパスポートに目標やがんばりたいこと、取り組みの方法等を書かせ、それに対して振り返りをさせている。学習や学校行事の際にも、目標をもたせ、振り返りをさせ、次の活動への意欲をもたせている。	A	・学校行事の後は、振り返りを行い、感想文を貼ることで、異学年の交流を、次の活動への意欲へとつなげた。児童のアンケートでは、「自分の目標をもって学校生活を送ることができている」と回答した児童は85%を超えた。	A	・児童が積極的で物怖じしない態度が印象に残っています。健全な教育が行われているのを感じます。	<心づくり部>	
●健康・体づくり	●「安全に関する資質・能力の育成」	●児童の交通事故を0(ゼロ)をめざす。けが等による保健室入室者5%減 ○自転車のヘルメット着用率100% ○防犯ブザーの所持率100%	・月に一度ヘルメットの着用や防犯ブザーの所持状況を調査し、通信等で保護者への啓発を図る。 ・感染症予防対策(マスク着用、手洗い等)の確実な実施 ・保健だよりの発行	A	・けが等による保健室入室者は前年度比7%減であり、目標を達成できた。 ・児童のヘルメット着用率は、90%、防犯ブザーの消音率は、95%であった。全校集会などで指導を行い、100%に近づけるよう努める。 ・マスク忘れは週に数名程度であった。保健だよりで感染症対策を定期的に呼びかけた。	A	・けが等による保健室入室者は前年度比7%減を維持できた。引き続き安全啓発を呼びかける。 ・児童のヘルメット着用率は96%、防犯ブザーの所持率は98%であった。指導を継続し、100%を目指す。 ・便り等で繰り返し感染症対策を呼びかけ、マスク着用・手洗いの習慣化が進み、感染拡大の防止	A	・マスクを外せない児童も増えているようです。大人も同様に、今後、状況に応じた指導が必要になってくると思われます。 ・安全啓発が十分に行われ、ヘルメット着用等安全面での指導が徹底されていると感じた。	<体づくり部> ・安全指導担当 ・養護教諭	
	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒90%以上	・「給食残菜ゼロ週間」の設定 ・児童委員会を主体とした取組の推進	A	・給食委員会にて1週間残菜チェックを行った結果、残菜は全学年とも減った。	A	・2週間の給食週間を設けた。児童委員会を中心に、食に関する本の紹介や、クイズラリー、残菜0週間の取り組みを行った。また、給食を残さず食べるよう呼びかけた。期間中の残菜が全学年とも減った。	A	・食事の大切さを児童が理解することが大切です。	<体づくり部> ・給食担当	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務時間の上限を遵守する。 ○職員全体の時間外勤務平均45時間以下	・PCによる連絡掲示板の活用による伝達事項の効率化 ・毎月の業務記録のフィードバックによる個々人の業務改善の推進	A	・連絡掲示板などのPC活用がなされている。 ・時間外勤務平均は45時間を下回る35時間程度となっている。	A	・連絡事項のPC活用に加え、職員会議等での連絡事項と協議事項を明確にし会議の更なる短縮が図られた。 ・時間外勤務の平均は35時間で抑えられている。	A	・時間外勤務が35時間が一般的に多いの少ないのかよく分かりませんが、減らせるにしたいです。がんばりすぎないようにしてください。	教頭	
(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目											
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	主な担当者	
○特別支援教育の視点に立つ学級づくり	○個々が大切にされる学級風土の醸成	○毎月の教育相談・生徒指導会議の実施 ○保護者アンケートにて「個々に寄り添う学級づくり」への肯定的回答85%以上	・教育相談・生徒指導会議にて配慮を要する児童について共通理解や組織対応を充実する。	A	・教育相談・生徒指導会議を通して、配慮を要する児童の共通理解を図り、児童の実態に応じた支援の体制を整えた。 ・保護者アンケートの結果、個々に寄り添う学級づくりができているという肯定的回答は95%を超えた。	A	・教育相談・生徒指導会議を通して、配慮を要する児童の共通理解を図り、児童の実態に応じた支援の体制を整えた。 ・保護者アンケートの結果、「個々に寄り添う学級づくりができている」という肯定的回答は、97.5%だった。	A	・家族も助かり、子どもたちの成長に「つながる」という大切さを感じました。 ・学級の様子を見ると、個々に寄り添ってもらえていると感じます。授業を参観させていただくと先生と児童の心の交わり、愛情を感じました。	・特別支援教育コーディネーター ・生徒指導担当 ・教育相談担当	
○教職員の資質向上	○指導力・実践力の向上	○教職員の資質能力の向上に資する職員研修の実施	・勤務、学習指導、特別支援教育に関する研修の実施	A	・計画していた教職員研修は、すべて実施できている。特に、勤務に関する研修(ゼロの日)も確実に実施できている。	A	・計画していた教職員研修(後半)もすべて実施でき、学力向上に関する追加研修も実施した。勤務に関する研修「ゼロの日」についても確実に実施できている。	A	・研修も十分行われていて学力向上に努められていると思います。	教頭、各担当	
○保護者・地域との連携	○開かれた学校の推進	○保護者アンケートにて学校や学級の情報発信について肯定的回答90%以上	・週一回以上のHP等の情報発信	A	・週1回以上のHP更新を行っており、保護者アンケートにおいても100%の肯定意見である。	A	・週1回以上のHP更新を行っており、保護者アンケートにおいても100%の肯定意見である。	A	・時代的に保護者同士のつながりが希薄になっているように思います。 ・学校便りを楽しみに読んでいます。	・教頭、教務、各担当	
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育											
5 総合評価・次年度への展望	<p>令和4年度の重点目標については、概ね達成できたと考えている。令和5年度に向かうにあたり、これまでの取組を継続しつつ、次の視点をもって取り組んでいきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の学ぶ目的意識と向上心の喚起、学校と家庭が連携した学力向上への取組の推進 ・安全安心な学校づくりに資する、統一感をもった教職員の指導体制の維持と強化 ・GIGAスクール構想に基づく、ICT活用の全学年的取組の推進 										